

議会運営委員会行政視察報告書

令和4年5月30日

つくば市議会議長 小久保 貴史 様

議会運営委員長 小野 泰宏
(公印省略)

本委員会は、下記の通り行政視察を実施したので、報告します。

記

1 視察期間

令和4年5月18日(水)から令和4年5月20日(金)まで

2 視察先及び視察事項

(1) 京都府亀岡市

議会改革について

(2) 京都府福知山市

議会改革の取組について

(3) 京都府宇治市

議会改革について

3 視察目的

本委員会所管に係る上記事項について調査研究し、本市の議会運営の発展に寄与する

4 参加者 計10名(委員7名、議長、事務局(随行)2名)

委員長 小野 泰宏

副委員長 五頭 泰誠

委員 小村 政文、小森谷 さやか、黒田 健佑、神谷 大蔵、塚本 洋二、
鈴木 富士雄

議長 小久保 貴史

事務局 川崎 誠、町井 浩美

5 研修内容

(1) 京都府亀岡市【5月18日（水）説明:亀岡市議会議員3名、議会事務局職員2名】 議会改革について

亀岡市では、平成22年に制定された議会基本条例を基に様々な議会改革に取り組まれている。制定後、2年毎に検証を行っており、その都度、達成具合を確認し、見直しが必要な場合は改正を行いながら、改革を進めている。

近年の主な取組としては、これまで議会報告会を23自治会単位で行っていたが、年数を重ねる度に参加人数が減少したことを機にやり方を見直し、平成28年度から議会報告会と合わせ、NPO団体や地域の課題を抱えている団体と話し合うこと目的とした「わがまちトーク」を開催し、広く市民からの意見を聴く機会を設けている。報告会という形式から、市民により議会に興味を持ってもらうため、広聴することをメインに変化している。平成31年から、議会報告会は、「毎年開催する」から、「開くことができる」と改正し、必要に応じて、開催することに変えた。報告することよりも広聴が大事だという認識になった。

また、広報広聴委員会において、「まち歩きトーク」と称し、テーマを決めて、委員が市民に現場でインタビュー活動を行い、広く市民からの意見を収集し、課題解決に繋げていくという取組も今年度から始めている。

事務事業評価の実施については、決算において事務事業選定を行い、評価シートに基づき分科会で審査を行い、提言をまとめ、次年度の予算審査において執行部から改善等対応の報告を受け、それを踏まえ予算審査を行うサイクルを確立している。これによって、決算において、議会が事務事業の点検を行い、予算編成にいかすことが出来ている。

通年議会については、平成30年6月から導入し、会期を6月から翌3月末とし、会期中はいつでも議会を開くことを可能とした。

そのほか、同一の会派に属さない議員3名以上で結成し、特定の市政の課題について調査研究を行う政策研究会を設置し、会派を超えた議論を行っており、政策的条例案の策定や市長、そのほかの執行機関に対する政策提言を行っている。

また、議会改革の一環として、事務局に頼らず、議員が中心となって、議会だよりを発行することや議会フェイスブックを議員が中心となって発信するなどの試みも実践されている。



(2) 京都府福知山市【5月19日(木)説明:福知山市議会議員5名、議会事務局職員2名】
議会改革の取組

福知山市では、平成25年に議会基本条例を制定し、改革に取り組んできた。

議会基本条例の柱として、①情報公開の推進、②市民参加の推進、③議会の機能強化(議会の活性化)を掲げている。

①情報公開の推進については、議案賛否の公開、役職選出にかかる所信表明会の実施、委員会審査のライブ中継・録画配信の導入などを行っており、役職選出にかかる所信表明については、役職を志す所信表明者が所信表明を行い、それに対しての質疑応答の時間を設けており、インターネットライブ中継、録画配信を実施し、透明性を確保している。委員会のライブ中継・録画配信については、平成25年10月から運用を開始しており、予算決算委員会、常任委員会の請願審査、行政視察報告会、議会政策検討会議等を配信している。

②市民参加の推進については、議会報告会の充実、出張委員会の実施、行政視察報告会の実施、高校生フレッシュ議会の開催、議員定数を考える市民意見交換会、傍聴者への取組充実などを行っている。議会報告会については、対話形式で市民との自由な意見交換を実施し、団体対象形式と地域巡回形式を並行して実施して、平成23年から令和3年まで、延べ41会場で実施し886名の参加者数があった。出張委員会の実施では、委員会において、調査研究テーマを決定し、案件の内容に適した場所に出張し、広く市民の傍聴を募り、情報を発信するため、年1回以上実施している。高校生フレッシュ議会では、選挙権の年齢が引き下げられることに伴い、高校生に行政や議会に対する関心度を高め、まちづくりに参画してもらうことを目的に行った。議員定数を考える市民意見交換会については、議会基本条例において、議員自らが、考え判断し、自ら市民への説明責任を果たすため、改正理由を付記して議員が提案することと(第24条第3項)されており、議員定数、報酬、政務活動費について検討を重ね、これまでの検討結果を報告し、市民の意見を交換した結果、議員定数に関して、次期改選時に2名削減することが決定され、臨時会を経て、26名から24名となった。

③議会の機能強化については、議決事項の充実、議員研修の充実、災害発生時の議会の対応、請願審査の充実、自由討議の推進、予算決算審査委員会の政策提言、議会政策検討会議の設置、市議会から市長へ政策提言書の提出、議会ICT化の推進、オンライン会議などを行っている。請願審査の充実に関しては、請願提出者の負担を軽減するため、議員に対して、一度に説明ができるよう合同説明会を開催し、趣旨説明を行っている。議会政策検討会議の設置では、委員会、会派、議員から市政に関する重要な政策及び課題を提案し、それに対し、議会改革検討会議において協議し、出席議員の過半数の同意をもって市長に政策提言を行う。また、コロナ禍において、タブレットの導入及びオンライン会議の導入を行った。



(3) 京都府宇治市【5月20日(金)説明:宇治市議会議員2名、議会事務局職員2名】
議会改革取組の経緯と現状

宇治市では、平成23年に議会基本条例を制定し、改革に取り組んできた。

その中で近年の主な取組として、①議会のICT化について、②議会改革に関する小委員会の取組がある。

①議会のICT化については、議会内のペーパーレスの環境整備や情報伝達の迅速化を図るため、タブレット端末の導入を議会情報ファイリングシステムの運用を開始した。令和元年7月から、タブレット端末を導入し、翌年1月から議会情報ファイリングシステムを導入した。タブレットの機種については、先行導入した本会議に出席する執行機関の職員に貸与された同一機種とした。ファイリングシステムについては、本会議や委員会で使用する紙媒体の資料は廃止し、ペーパーレス化に繋げることにした。

②議会改革に関する小委員会の取組については、令和3年6月に議長から議会運営委員会に諮問された議会改革に関する調査・検討を行うため、各会派からの代表者5名の議員からなる小委員会を設置し、主に「ICTの活用」、「大規模災害が発生しても機能する議会」、「議会棟設備改修」について、議論が重ねられた。10月には、中間報告として、災害時等のオンライン会議の活用、非常時災害時に議会が機能を維持するための宇治市議会業務継続計画の策定の決定、ICT化、災害時の議会活動の維持のための議場設備の整備についてまとめた。今後、最終報告に向け、最終の議論を行っている。

そのほかの取組として、平成27年3月定例会から、本会議や議会運営委員会以外の常任委員会及び特別委員会をユーチューブで配信を行っている。休憩中も修正なしで中継を行っている。また、平成20年から1階ロビーにおいて、議会放映を開始したが、現在はコロナ禍において、配信を取りやめている。また、今年度、9月にZOOMで市民との集いを企画中。常任委員会ごとにテーマを決めて行う予定。



<視察後の考察>

新型コロナウイルスの感染拡大のため、実に3年ぶりの議運の視察であった。今回の視察は、まだ各議会での受け入れ状況に温度差もあるため、結果として京都府内の3つの市議会の視察となったが、同じ府内でも考え方や手法に違いがあることも、改めて分かり、有意義な視察となった。

以下、今後のつくば市議会での取組に活かすという観点から、今回の視察について、学んだ点を含み感想を述べる。

① 議会基本条例の検証について

つくば市議会では上記について、条例に明記されている(第29条一項)が、一般選挙を経た任期開始後、できるだけ速やかに、条例の目的が達成されているかどうかの検証をするものとしている。そして、これまでに2回の検証を行っている。

亀岡市議会では2年ごとの検証、福知山市議会では6年で検証を行っていた。特に、福知山市議会では、議会活動の目標とする状態と現状の分析という差異分析を行っており、議会で目標とする姿の合意や共有化を図っていることは、絶えず改革の方向性を確認でき、素晴らしいと感じた。この手法は、つくば市議会でも取り入れる価値があると感じた。

② 議会報告会について

広聴機能の強化を行っている印象を強く持った。亀岡市議会の「わがまちトーク」、福知山市議会での「出張委員会」など、報告会からの進化を積極的に図っている。コロナ禍のため、つくば市議会では「オンライン」による議会報告会を行っているが、今後はより広聴機能の強化を目指すべきであると感じた。

③ 委員会中継について

3市議会とも、積極的に行っていた。つくば市議会では、本会議のみの中継・録画配信であるが、情報公開の観点からは、積極的に考えていかなければならないと感じた。

④ 議員間の合意形成について

最終的に、合意形成ができなければ、改革の取組も進めることができない。宇治市議

会では、特にこの点について、配慮を行っていると感じた。議員間の「対話」ができるかどうかは、「議員間討議」に直結することであり、一見遠回りのように感じる部分もあるが、最終的には、議会改革の進展や実効性につながる重要な点である。

昨今、常任委員会でテーマを決め、そのテーマに従って行政視察や委員会任期の結着点としての政策提言を行う議会が増えていると感じている。その軸に「議員間討議」がある。つくば市議会の2回目の議会基本条例検証では、多くの会派からこの「議員間討議」のあり方や進め方について、意見があった。現在、つくば市議会でも予算決算委員会で、こうしたテーマに従っての合意形成の取組を試行しているので、更に熟度を増していきたいと考える。

議会運営委員会の視察は、視察先の議員と率直な意見交換ができる有意義な機会である。市民からの「声」を聴き、市政における様々な課題を解決し、市民福祉の向上を目指すために、今回の視察で学んだことを、今後のつくば市議会での改革の取組に活かしていきたいと考える。

以上